

製品名: CASP8 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM81048**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ELISA,FC
反応性	人間、マウス、サル、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	26kDa

抗原情報

遺伝子名	CASP8
別名	CAP4; MACH; MCH5; FLICE; ALPS2B; Casp-8; FLJ17672; MGC78473
遺伝子 ID	841.0
SwissProt ID	Q14790
免疫原	大腸菌で発現したヒト CASP8 の精製された組み換え断片。

背景

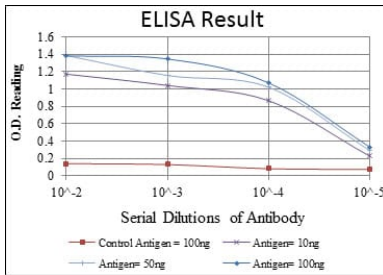
この遺伝子は、システインアスパラギン酸プロテアーゼ（カスパーゼ）ファミリーのメンバーをコードしています。カスパーゼの連続的な活性化は、細胞アポトーシスの実行段階で中心的な役割を果たしています。カスパーゼは、プロドメイン、大プロテアーゼサ

プユニット、小プロテアーゼサブユニットからなる不活性なプロ酵素として存在します。カスパーゼの活性化には、保存された内部アスパラギン酸残基でのタンパク質分解処理が必要であり、大サブユニットと小サブユニットからなるヘテロ二量体酵素が生成されます。このタンパク質は、Fasや様々なアポトーシス刺激によって誘導されるプログラム細胞死に関与しています。このタンパク質のN末端FADD様デスエフェクタードメインは、Fas相互作用タンパク質FADDと相互作用する可能性を示唆しています。このタンパク質は、ハンチントン病患者の罹患脳領域の不溶性画分で検出されましたが、正常対照群では検出されなかったことから、神経変性疾患における役割が示唆されました。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが多数記述されているが、すべてのバリエーションの完全長配列が決定されているわけではない。

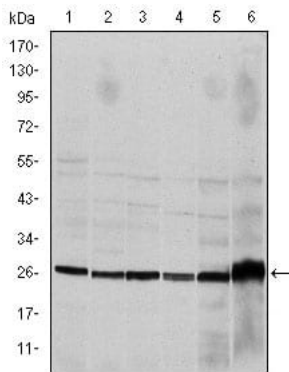
研究分野

アポトーシス

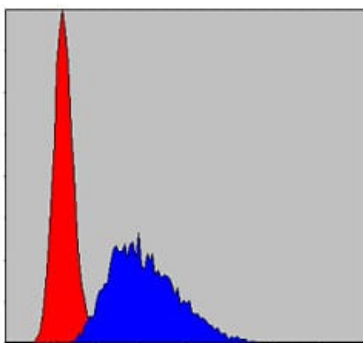
画像データ



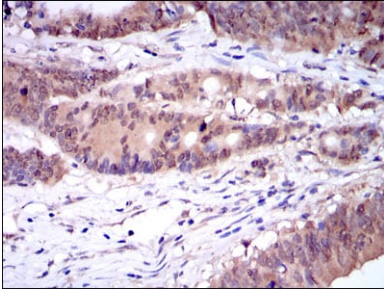
赤: コントロール抗原 (100 ng); 紫: 抗原 (10 ng); 緑: 抗原 (50 ng); 青: 抗原 (100 ng);



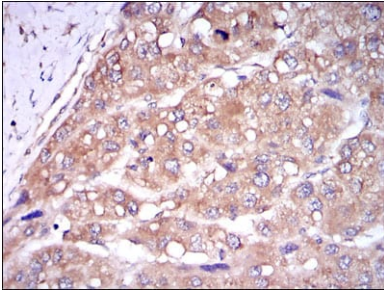
CASP8 マウス mAb を用いた Hela (1)、Jurkat (2)、THP-1 (3)、NIH/3T3 (4)、Cos7 (5)、PC-12 (6) 細胞溶解物に対するウエスタンブロット解析。



CASP8 マウス mAb (青) とネガティブコントロール (赤) を使用した NIH/3T3 細胞のフローサイトメトリー分析。



CASP8 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学分析。



CASP8 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト肝臓癌組織の免疫組織化学分析。